外国人労働者に対する安全衛生教育教材作成事業（建設業）

『鉄筋施工業務及び鉄筋継手業務』安全衛生のポイント

工場作業

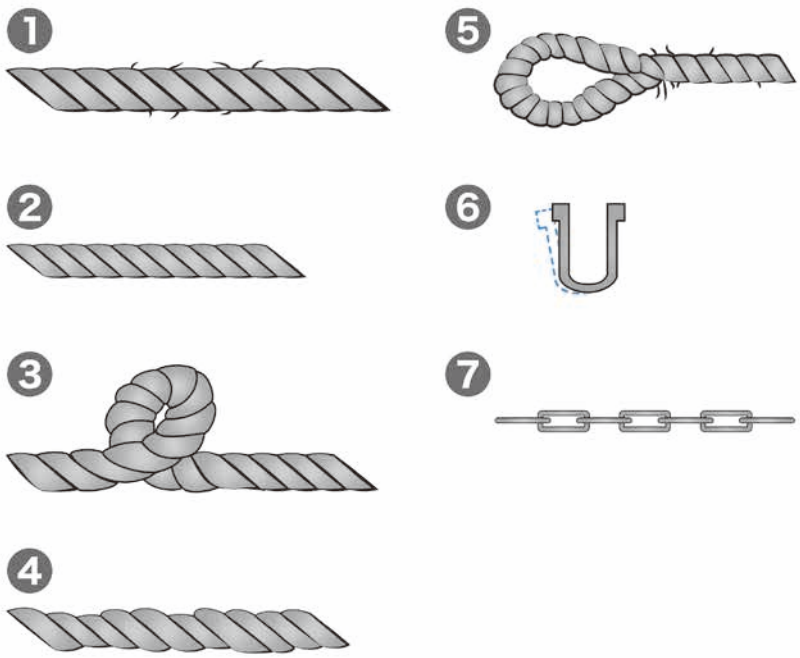
（1） 工場（加工場）にも危険は多く潜んでいます！

- 加工作業中にも多くの災害は発生しています。
- 機械を使う作業では正しく使用しないと大きなケガになることを再認識してください。
- 作業前の点検を怠らないこと。
- 災害にあわないよう自己防衛することも大切です。

ワイヤーロープの点検は確実に

玉掛けワイヤーロープの点検

※ワイヤーロープは切れることがあります！ワイヤーの状態やつり角度など確認すること！



① １より当たり 10％以上の素線が切れているワイヤーロープ
② 直径が７％以上減少しているワイヤーロープ
③ キンクしているワイヤーロープ
④ 著しい型崩れや腐食があるもの
⑤ サツマ部分が損傷したワイヤーロープ
⑥ シャックルやクリップで変形又は亀裂のあるもの
⑦長さが製造時の５％以上伸びてしまったチェーン

（2）整理整頓は作業効率をあげ災害を減らします！

持ち場を整理しケガなく効率の良い仕事をしましょう！

現場４Ｓ活動

整　理
必要なものと不要なものを区分し、不要、不急なものを取り除きます。

整　頓
必要なものを、決められた場所に、いつでも使える状態にしておきます。

清　潔
整理、整頓、清掃を継続し、汚れのない状態を維持します。

清　掃
掃除をして、ゴミや汚れのない状態にし、点検により、問題点がわかるようにします。

（3）加工作業における災害事例 No 1

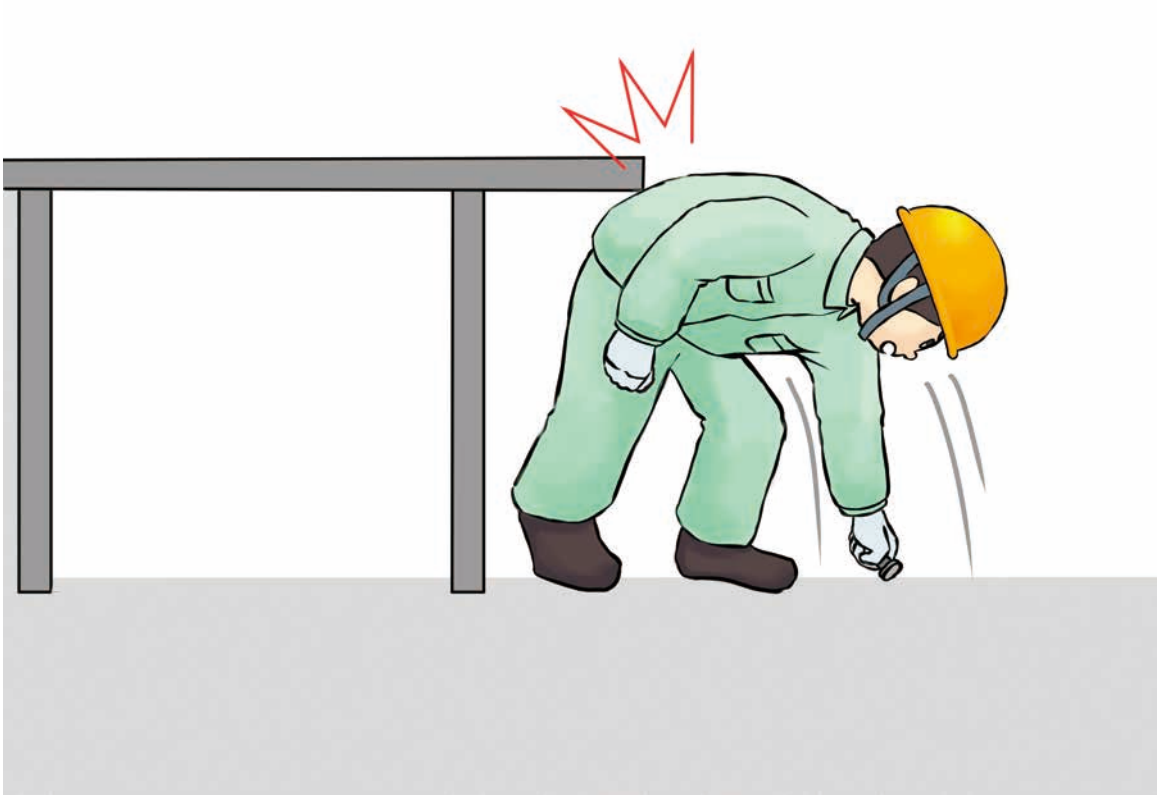
発生状況

細物鉄筋をかついでいたところ、足元に集積してあった鉄筋を踏み、鉄筋が転がって鉄筋を手にかついだまま転倒した。鉄筋が番線などで結束されておらず、生材（直筋）が転がる状況にあった。

守るべきこと

①生材（直筋）を集積する場合は、必ず番線などで結束し転がらないようにすること。
②通路には資材を置かないこと。

（4）加工作業における災害事例 No 2



発生状況

狭い場所に落ちた切断片をかがんで拾い、起き上がった時に、加工台に背中をぶつけた。

守るべきこと

①狭い場所へは手を伸ばさないこと。
②磁石やマジックハンドを使って拾い、無理な姿勢を取らないこと。
③資材や加工台の位置は常に確認し、体が接触しないようにすること。
④作業は落ち着いてすること。

（5）加工作業における災害事例 No 3

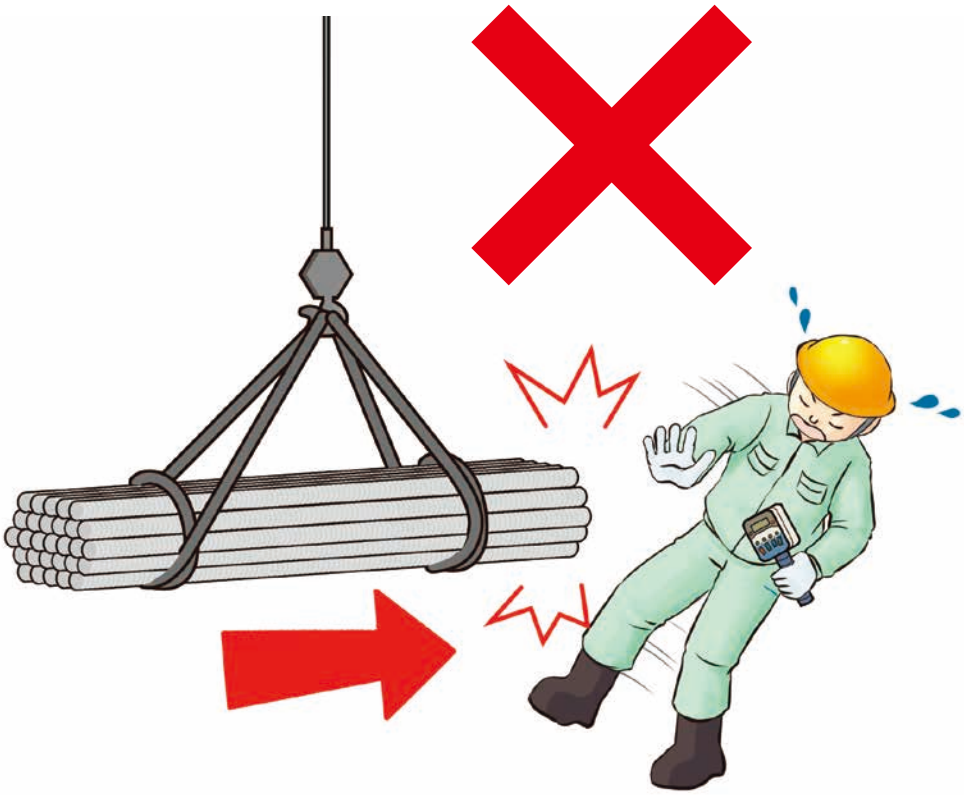
発生状況

手動の鉄筋曲げ機により曲げ加工をしていた時、ローラーの近くを押さえたことにより、ダブついていた皮手袋がローラーに巻き込まれ手を負傷した。

守るべきこと

①ダブつき等がないよう手袋を適正に着用して作業すること。
②巻き込まれることがないところに手を添えること。
③繰り返し作業の時こそ注意力を維持し惰性にならないこと。

（6）加工作業における災害事例 No 4



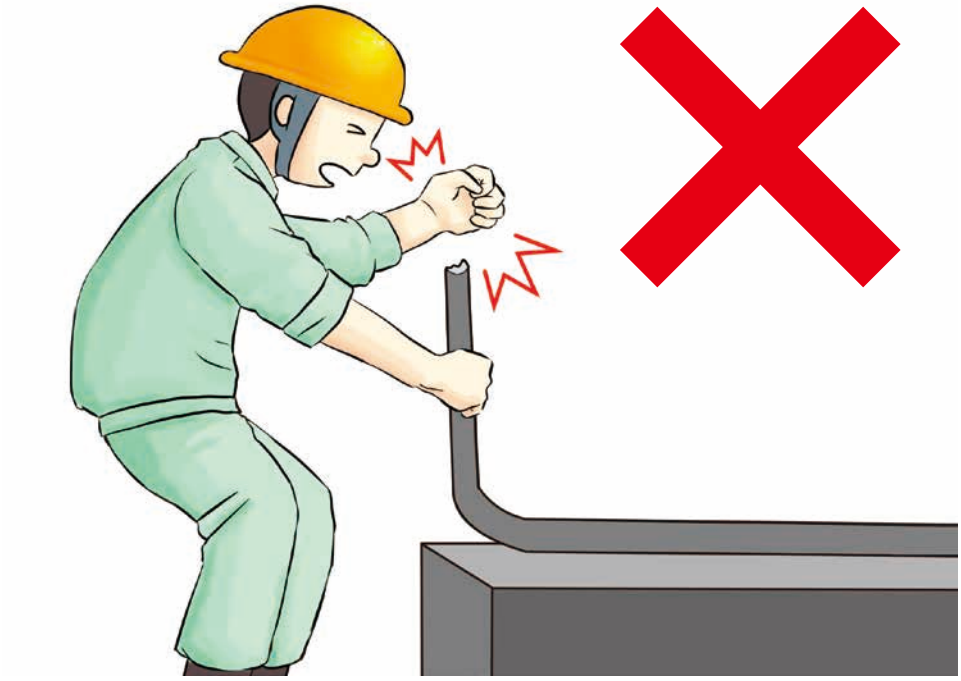
発生状況

鉄筋の束をクレーンでつっていたとき、片手で材料を押さえながら片手でリモコンを操作していて、リモコン操作を誤り、手を材料に挟まれた。

守るべきこと

①別のことをしながらの操作は絶対にしないこと。リモコン操作に集中し、別の作業をしながら操作はしないこと。
②リモコン操作はできるだけ両手で、しっかりと確認しながらボタンを押すこと。
③長尺物は２人で移動させること。

（7）加工作業における災害事例 No 5



発生状況

太径鉄筋を二人作業で曲げ加工した後、曲げた材料を下ろそうとしたところ、鉄筋の鋭利な切り口で、作業着の袖をまくり、むき出しになっていた腕を切傷した。

守るべきこと

①単純で慣れた作業の時こそ注意力を高め、惰性にならないこと。
②鉄筋の切り口は鋭いので、刃物を扱う場合と同様の意識を持つこと。
③夏場の暑い日でも腕まくり等せず、作業着をきちんと着用すること。
④手甲の着用は非常に効果的なので使用するのが望ましいこと。

（8）工場（加工場）でケガをしないために（総括）

- 玉掛けワイヤーなどの点検やつり角度の確認をしっかりとする！
- 工場内でも４Ｓ運動は必要です！整理整頓を励行する！
- 作業通路を確保し、材料の上を歩行しない！
- 狭い場所へは無理に手を伸ばさない！
- 機械に手袋（軍手）が巻き込まれる事例は多いので十分に注意する！
- クレーンによる操作では、操作に集中し荷が振れても支障のない位置で操作する！
- 鉄筋の切り口（バリ）は非常に鋭利です！刃物を扱うくらいの意識で作業する！

作業に慣れてきた頃に油断による災害が多いので、常に危険と隣り合わせであるという意識を持ち作業すること。